

環境情報センターだより

発行 宮城県保健環境センター
住所 仙台市宮城野区幸町 4-7-2
TEL 022-257-7183
FAX 022-257-7194

2009 年
第 5号
2009. 7. 27

梅雨明けももう間近になって、夏の太陽が照りつけるようになり、構内の木々はますます深緑を増しています。

もう、夏休みに入りましたが、小・中学生の皆さんは自由研究や旅行の計画を立てたり、また受験勉強を頑張っているのではないかと思います。今年も夏休み期間中に「環境学習教室」を行っており、地球の環境を調べ



たり、くらしと温暖化、そしてエネルギー・資源の問題について、みんなで考え、学んでいます。また、8月2日(日)に保健環境センターの一般公開も行います。(企画総務部)



◆ 宮城県環境教育リーダー研修会の開催

6月17日、宮城県自治会館において、宮城県環境教育リーダーを対象とした研修会を開催しました。ソニー白石セミコンダクタ株式会社浅野順次氏を招き、「企業における環境教育の取り組み」と題した講演を行いました。企業として地域との関わりを大事にしており、川の清掃活動や環境イベントへの参加、小学校への出前講座などを積極的に行っている話など多くの活動事例が紹介されました。また、社員への環境教育として、環境川柳の募集や環境活動に参加すると付与される貢献ポイント制度など多くの環境啓発活動を実施されているとの話がありました。受講者の環境教育リーダーの方々からも多くの質問があり、大変有意義な研修会になりました。

(文 環境政策課 齋藤陽子)

◆ 第二回環境教育実践セミナーの開催

7月8日、保健環境センターにおいて、「森林と水環境を守る地域環境活動をめざして」をテーマとして、水資源を生産活動に利用している企業が行う環境活動、森林保全をとおしてNPO法人が行う環境教育を紹介するセミナーを開催しました。

はじめにサッポロビール仙台工場宮田靖志氏から企業の社会的責任（CSR活動）の考え方、環境保全への取り組み、また地元の地域活動についてお話がありました。

つぎに、NPO法人宮城県森林インストラクター協会木村健太郎氏から県民の森を中心にした環境教育について自然のインタープリターとしての知識やスキル、情報の伝達のありかたについてお話がありました。



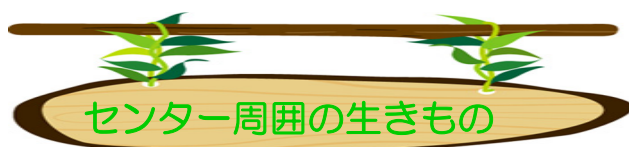
講演の様子



講演を聴く参加者

今回のセミナーは当初から各方面からの問い合わせがあり、定員を超える皆様の参加となりました。会場では多くの方からのご意見があり、森林や水資源の持続可能をめざした環境活動について情報交換する機会を持つことができました。

お知らせ！！ 環境教育リーダーの活動の様子(写真、記事など)をお知らせください。
センター便りに掲載したいと考えています。



センター周囲の生きもの

◆ クスノキ

構内のクスノキは、昭和 56 年に移植してから二十数年経っていますが、幹の太さや枝の繁茂の状態はすでに周りの植物を圧倒しています。そもそもクスノキの植生は東北地方のものではなく、西日本を中心にして多くは寺社仏閣の境内で見られます。福岡市や熊本市街地を高台から見ると、あちらこちらに薨をぬきでて緑が盛り上がった大木を見ることができます。古来、人々は巨樹に対してその威厳ある姿恰好から永遠の時間と生命力を感じ、また自然への畏敬の念から神として崇めてきました。その証拠にどこの地方でも巨樹には必ずしめ縄が張られています。巨樹の中の巨樹として、鹿児島県のほぼ中央に位置する蒲生町の蒲生八幡神社境内にある国の特別天然記念物指定の「蒲生のクス」が日本一の巨樹と言われています。推定樹齢 1,500 年といわれ、高さは 30m もあり、写真から想像すると「蒲生のクス」を前にしたらやはり靈感の存在を感じるものと思います。



クスノキは漢字で楠や樟とも書きます。南方からやってきた木、楠なのか、また樟脳の原料として使われていたことから樟なのか、どちらがクスノキの特徴を言い表しているのでしょうか。ちなみにセンターの銘板には「クスノキ」と表記しています。

またクスノキに「楠学問」という言葉があるそうです。クスノキの巨樹に見立てて、人生の歩みは遅いが堅実に学問を進め大成できる人物を願ってのことだそうで、その反語は「梅の木学問」だそうです（広辞苑を参照）。そのため、クスノキは寺社仏閣のほか学校に植えられる場合もあるようです。構内のクスノキはこのような諺を知って植えられたのか、また温暖化を予測してクスノキの植生に反して植えられたのか分かりませんが、朝に夕にお姿を拝顔しクスノキにあやかれることを願う日々です。

(文 保健環境センター 鈴木康民)



◆ **今回入手した図書の概要を紹介します。どうぞご利用ください。**

なお、貸出についてはホームページ「環境学習」のページをご覧ください。

■ **図 書**

《 **気象ブックス ココが知りたい地球温暖化** 》

(独)国立環境研究所 地球環境研究センター(著) 成山堂書店(出版社)

概要:地球温暖化については、よく知っているようでいて、必ずしもわかっていない部分も多くあるのではないのでしょうか。地球温暖化にまつわるよくある質問、素朴な疑問に、国立環境研究所の第一線の研究者がズバリ答えます。

《 **気候変動がわかる気象学** 》

住 明正(著) NTT出版(出版社)

概要:神の御業か、単なる物理現象にすぎないのか。地球温暖化、異常気象を予測するとはどういうことか。天候というもっとも身近な自然現象の分析法をやさしく解説します。

《 **自然を解剖する** 》

池内 了(著) NTT出版(出版社)

概要:クオークから宇宙まで多種多様な物質構造からなる自然界。この巨大な世界を大胆かつシンプルにとらえる枠組みを紹介します。「サイズ」と「密度」を手がかりに自然が隠し持つ絶妙な仕組みを解き明かします。

《 **地球システム学のすすめ** 》

鳥海 光弘(著) NTT出版(出版社)

概要:地球の内部活動が見えた。地震や火山噴火から数億年の造山運動まで、惑星規模の運動のしくみをやさしく解き明かす最新の地球科学の入門書です。

《 **地球 46 億年全史** 》

リチャード・フォーティ(著) 草思社(出版社)

概要:大地を持ち上げ、動かし、歪ませる。この星の想像を絶する巨大な力は、地球の相貌をいまなお激しく変えつつあります。大地と海と生物の激動の 46 億年を一望します。地球の見方が大きく変わる本です。

《 生命 40 億年全史 》

リチャード・フォーティ(著) 草思社(出版社)

概要:生命の歴史は壮大にして豊穡なる物語。いかなる進化劇が展開されてきたのか。尽きせぬ謎を解く鍵を探し、古生物学者たちは世界中を奔走します。広大無辺な 40 億年を一つの物語にまとめ上げた生命史です。

《 生命と地球の歴史 》

丸山 茂徳, 磯崎 行雄(著) 岩波書店(出版社)

概要:変動する地球とそこで生まれた生命は、密接な関係をもちながら現在までの歴史を刻んできました。プレート、プレートの両テクトニクスと古生物学などの学際的な最新研究が描き出す、地球 46 億年、生命 40 億年の新たな変遷像を解説します。

《 生命と地球の共進化 》

川上 紳一(著) 日本放送出版協会(出版社)

概要:地球創成以来、生命と地球環境の変動は、地球内部から宇宙までの影響を受けながら共進化してきました。地球史 7 大事件の証拠を世界の地層から探り出し、大胆な作業仮説ころがしにより、全地球史の解読を試みます。

《 図解入門 最新地球史がよくわかる本 》

川上 紳一, 東條 文治(著) 秀和システム(出版社)

概要:地球 46 億年の豊穡なるストーリー。生命と地球の驚くべき進化劇を最新の知見を用いて図解入りで判りやすく描きます。地球史解読の決定版です。

《 日本人はなぜ環境問題にだまされるのか 》

武田 邦彦(著) PHP 新書(出版社)

概要:二酸化炭素が増えたから温暖化したわけではありません。それほど温暖化もしていません。そもそも温暖化は悪いことではないにもかかわらず、ウソ報道に洗脳されています。聞こえのいい偽善にだまされ、損をしないために、すぐに知っておきたい環境問題のからくりを解説します。

《 図解雑学 河川の科学 》

末次 忠司(著) ナツメ社(出版社)

概要:河川の基本、雨や洪水のメカニズム、洪水が引き起こす水害の話、水害(氾濫)の実態を踏まえた減災対策など、知っておくと役に立つ、河川に関する様々な知識・情報をやさしく解説します。

《 日本人はどのように森をつくってきたのか 》

コンラッド・タットマン(著) 築地書店(出版社)

概要:強い人口圧力と膨大な木材需要に関わらず日本列島に豊かな森林が残ったのはなぜなのでしょう。古代から徳川末期までの日本人・日本社会と森の関わりを、歴史資料から明らかにします。

《 森と人間の歴史 》

ジャック・ウェストピー(著) 築地書店(出版社)

概要:人間社会は森林とどのようにかかわってきたのか。有史以前から現代まで、世界の文明史、経済史を森林というキーワードによって再構成します。森林問題の第一人者が地球を覆う環境危機の常識を根本から問い直す視座を私たちに与えてくれます。

《 ふしぎな生きものカビ・キノコ ～菌学入門～ 》

ニコラス・マナー(著) 築地書店(出版社)

概要:菌が存在しなかったら、今の地球はなかった。毒キノコ、病気・腐敗の原因など古来薄気味悪がられてきた菌類。菌が地球に存在する意味、菌の驚異の生き残り戦略、菌に魅せられた人々などを解説します。

《 菌類のふしぎ ～形とはたらきの驚異の多様性～ 》

国立科学博物館(編) 東海大学出版会(出版社)

概要:きのこやカビが繰り広げる驚異に満ちた多様な世界。国立科学博物館の特別展「菌類のふしぎ～きのこことカビの仲間たち」の展示内容と背景をさらに詳しく解説します。

《 粘菌 ～驚くべき生命力の謎～ 》

松本 淳, 伊沢 正名(著) 誠文堂新光社(出版社)

概要:動物, 植物, 菌類とは異なる生態を示す粘菌。森の宝石のように美しい粘菌や子実体の写真を250点余り掲載。地を覆い, 空を飛ぶアメーバ粘菌, その多様さ, 生い立ち, 進化など, 粘菌の不思議な魅力を解説します。